

令和6年度小平市立小平第十四小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全 14 問の正答率は全国平均より 1.7 ポイント低く、東京都平均より 4 ポイント低かった。「読むこと」は東京都平均より 14.2 ポイント低く、「話すこと・聞くこと」は、1.1 ポイント低かった。毎年課題に挙げられていた「書くこと」はすべての問題で東京都平均を上回り、4.1 ポイント高い結果となった。問題形式別の正答率では、「記述式」が東京都平均より 11.8 ポイント低かった。特に「読むこと」に関する「記述式問題」が 30.6 ポイント低かった。特に無回答率が多いことで（東京都平均より 17 ポイント高い）、正答率を大きく下げた。

解答時間が十分でなかったとの意見が東京都平均より 15.9 ポイント高く、「記述式問題」と「無回答率」が課題となった。事実と感想、意見を区別して書く問題は 7.1 ポイント高いが、人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて記述する「読むこと」を問われる問題が 30.6 ポイント低かった。書く視点が明確な問題よりも、自由記述式のアウトプットに課題が残る。「短答式」の正答率は 6.1 ポイント高いが、「記述式」の無回答率が高いことから、自分の考えを書く経験自体が少ないことがうかがえる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 「読むこと」「書くこと」の力を向上させるための取組を重点化し、実践する。例として、
 - ・ 学習者用端末を活用し、友達の表現を見たり、話し合ったり、評価し合ったりする時間を確保する。
 - ・ 朝読書を毎週金曜日に行い、自分の考えをもって読むことや、正しく理解して読む経験を積ませる。
 - ・ 新聞記事などを読み、自分の意見や考えを記述する時間を確保する。
 - ・ 教科書などの例を参考に、意見文や提案書などの書き方に慣れるよう定期的に「書く」指導を行う。
 - ・ 一定の時間内で感想を書いたり推敲したりするなど、時間を意識した指導を行う。
 - ・ 書く前にペアトークやグループトークを取り入れて、多様な考え方に触れる機会を設けることで、書くことの参考とさせる。
 - ・ 日直のスピーチ、学習感想、インタビューなど、日頃から自分の考えを発表したり相手の考えを聞き、要約したりする時間の確保を行う。
 - ・ 朝学習の時間を活用して、語彙を増やしたり文章を書いたり国語科の授業時間以外に「書くこと」についての学習時間を確保する。

【算数】

状況の分析

課題

全 16 問の正答率は、全国平均より 0.6 ポイント高く、東京都平均より 4 ポイント低かった。領域ごとに東京都平均と比べると、全ての領域で東京都平均を下回った。特に「図形」は 6.4 ポイント、「変化と関係」は 5.5 ポイント低く、ともに令和元年度から課題となっている。また、評価の観点で見ると、「思考・判断・表現」を問う問題が 7.6 ポイント低く、国語同様、無回答率の高さも正答率を大きく下げている原因となっている。

特に「図形」の正多角形の問題や球の直径と立方体の一辺の問題の正答率が 10 ポイント程度低い。面の数や体積を求める公式を覚えているだけでは対応できていないことがうかがえる。具体物や学習者用端末でイメージ化を図る必要がある。「変化と関係」では、分速を求める問題と速さと道のりから時間を求める問題の正答率が 10 ポイント程度低い。こちらは速さ・道のり・時間を求める基礎的な問題の習熟が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- 算数の授業において「図形」「変化と関係」についての技能を向上させる。例として、
- ・整数、小数、分数などの計算問題にとどまらず、展開図、見取図、多角形、速さ、距離・時間についての算数プリントを活用し、各領域の基礎学力を定着させる。
 - ・図形の性質や構成要素に着目させ、活動を通して図形についての理解を深められるようにする。
 - ・朝学習や家庭学習において、実態に応じて、苦手な領域の東京都ベーシックドリルを活用する。
 - ・デジタル教科書を活用して、「図形」を視覚化して理解を深められるようにする。
 - ・毎時間、学習課題に対して考える時間を十分確保し、ペアトーク、グループトークなど自分の考えを表現する機会を設定する。

【質問紙】

状況の分析

課題

生活習慣に対する意識が高く、肯定的な意見が東京都平均を上回った。自己肯定感について肯定的な意見も 7.2 ポイント高く、将来の夢や目標をもっている児童も 13 ポイント高い結果となった。人の役に立つ人間になりたいかの問いには全員が肯定的な意見であり、地域や社会をよくするために何かしたいかの問いに「当てはまる」との回答が 22.9 ポイント上回った。今回の学力調査の時間が不足していた・記述式の問題に対して無解答や諦めた問題があったという回答が東京都平均より多い結果となった。

今年度の質問紙についてはほぼすべての質問で肯定的な意見が東京都平均を上回っている。コミュニティ・スクールとして、地域や社会をよくしたいという思いは引き続き育てていく。学習については、将来の有用性や授業の理解度などは東京都平均を上回った。一方、「英語の勉強は好きか」の質問では、肯定的な意見は 2.7 ポイント低かった。平日に 1 時間以上の家庭学習をする割合は東京都平均とほぼ同じだった一方で、休日は 13 ポイント低い結果となっており、学習者用端末やドリルなどの活用等、家庭との連携が求められる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・生活指導では、保健だより・給食だより・SNS がんばりカード・SC の活用・ふれあい月間アンケートなど、学校から発信を継続し、引き続き家庭と連携して取り組んでいく。
- ・コミュニティ・スクールの会議を利用して、充実した取組が行えるように地域の人材のリストを活用して地域行事の体験活動について検討を重ねていく。
- ・学校図書館の活用の仕方や、調べ学習での本の活用など、国語科担当教員や図書館支援員との連携を強化する。
- ・教科指導の導入の工夫により、児童の興味・関心を高める学習展開を進める。
- ・学校だより等を活用し、休日にも学習者用端末や学習ドリルを用いた自主学習の推進を家庭に周知する。